



▲記念品を手にする校区最高齢の方。いつまでもお元気で。

敬老会

9月17日、市内各会場で75歳以上の高齢者を招待し、敬老会が行われました。文化会館では山陽地区の高齢者のうち203人が参加。社会福祉協議会から88歳の米寿を迎えられた方と各校区最高齢の方へ記念品が手渡されると、そのお元気な姿に会場からは温かな拍手が送られました。みなさん、ご長寿おめでとうございます。



▲優勝旗と賞状をたずさえての嬉しい報告です。日頃の訓練の成果が最高の結果につながりました。

優勝おめでとうございます！

9月15日、山口県消防学校で「第54回山口県消防操法大会」が開催されました。同大会では、県内各消防団の代表チームによる消防操法技術が競われ、本市消防団厚狭北分団が「応急操法・小型ポンプの部」において、見事優勝の栄誉に輝きました。これからも、市の安全を守るため頑張ってくださいね。

夢
いっぱい!

「感謝の気持ちを花火に込めて」
～心をつないで早10年～



「夢花火100年会」代表
山陽商工会議所 青年部
たなべ よしのり
田邊 善規 さん

お祝いや感謝の気持ちを込めたメッセージとともに、大輪の花火が秋の澄みきった夜空を彩る「お祝い夢花火」。1997年、山陽商工会議所青年部が「まちのために何かおめでたいことをしよう」とアイデアを出しあい、「埴生の海辺で、メッセージを添えた花火をあげよう」という斬新な発想から生まれたものです。

当初からこのイベントに携わり“お祝い夢花火が100年続きますように”との願いを込めて今年設立された「夢花火100年会」代表を務める山陽商工会議所青年部の田邊善規さんは、「新たなイベントをまずは知ってもらおうと、知人を通じてチラシを配ったり、お店にポスターを貼ったりと、手探りの状態でしたね。」と10年前のことを懐かしそうに振り返ります。そして迎えた第1回のお祝い夢花火。申込者からのメッセージに続いて、海辺ならではのスケールいっぱいの花火が次々と打ち上げられると、多くの人の想いを乗せた大輪の花火は秋の夜空を色とりどりに包み込み、その盛大で幻想的な光景が多くの観客を魅了したのでした。

大成功を収めた第1回目以降、回を重ねるごとに膨らむ観客の期待は、田邊さんをはじめとするメンバーにとって“もっとみなさんに感動を届けたい”という原動力となります。萩や長門の花火大会に足を運び演出の仕方を研究したり、花火師とどんな種類の花火をあげるのかを話しあったりと多忙な日々を送りますが、そんな努力に応えるかのように、申込者や来場者数は年々増加、今では晩秋の一大イベントとしてすっかり定着するまでになりました。

「人と人のつながり、心と心のつながりがあったからこそ、10年目の節目を迎えることができました。これからもみなさんと共に歩み、共に感動し、このお祝い夢花火をさらに成長させていきたいですね。」そんな田邊さんの願いとともに、今年も多くの人の想いを乗せ、「第10回お祝い夢花火」が10月27日、埴生漁港で開催されます。